

クスノキ通信

全日本建設交通一般労働組合広島県本部
〒七三〇〇八五三
広島市中区堺町一丁目二九一三〇三

TEL (082) 23513050
FAX (082) 23513052

e-mail

ctg303.hiroshima@orange.plala.or.jp



初日に来賓あいさつする日本共産党の塩川鉄也衆議院議員 (8月26日・大会会場)

4年ぶりにリアルな3日間開催

第25回全国大会に広島から5人が参加

戦争への道は歩まない、要求を実現し組織を大きく強く(角田委員長)

門田委員長が力強く組合結成を

報告、全国の仲間支援を訴え

八月二六日(二八日)の三日間、群馬県安中市の「石部ガーデンホテル」で建交労第二五回定期全国大会が開催され、代議員・特別代議員・傍聴者と中央役員など約一五〇人が参加しました。四年ぶりにコロナ前と同じ対面式で三日間の日程にて開催されました。



写真上から主催者挨拶する角田季代子建交労中央執行委員長と興国産業支部の門田久弘委員長、広島支部の廣木昭代委員長(大会傍聴者として山田代議員の推薦で発言しました)

角田季代子委員長は、「岸田政権が二四日に福島原発事故による放射能汚染水の海洋投棄を強行したことに断固抗議し、直ちに中止を求めると糾弾。続いて、「昨年末、岸田内閣は安保3文書を改訂し、憲法9条を持つ国でありながら『日本を戦争できる国』へと突き進めようとしている、重大な岐路に立っている」、「ジェンダー平等の課題では、国際指数でランキング一二五位の後進国として君臨しているにもかかわらず、物価高騰の下で女性労働者の多くが不安定雇用・低賃金で苦しんでおり、政府は抜本的な対策をとっていない」と。組織を拡大し強くする課題では、「仲間が集まり、みんなで相談し、行動することが大切。憲法を守り、仲間たちの生活改

善に向けて運動方針に団結し、一年間ともに奮闘しよう」と参加者に呼びかけました。門田久弘委員長(建交労興国産業支部)は、発言の冒頭「皆さんこれを聞いてください」と切り出し、組合結成のきっかけとなった社長のパワハラ音声を数秒流したあと、三井社長の会社でのパワハラの内容について訴えるとともに、組合結成に至ったことを参加者に報告し、今後のたたかいへの支援を力強く訴え大きな激励と連帯の拍手を受けました。

戦争反対は自分の責任

最高齢九六歳の傍聴参加者の廣木昭代さん(建交労広島支部)は、戦禍を生き延び、失業対策事業に就労し全日自労のたたかいを振り返り「戦争は絶対してはならない、子や孫に戦争する国を残してはならないと訴えるのは自分の責任です」と参加者に訴え大きな拍手を浴びました。

代議員参加の山田昭夫書記長は、興国産業支部を結成したこと、岸田政権が核兵器禁止条約を批准するように、引き続き運動を強めることを参加者に訴えました。

徒然草

岸田政権は、国会にも国民にもはかることなく軍事費(国防費)を今後5年間で現在の2倍(GDP〓国内総生産の2%)に増額することをアメリカのバイデン政権に約束、来年度予算の概算要求は7兆7千億円と言われている。◆かたや文部科学省の所管であるところの国立博物館や科学博物館が財政難に陥り、運営維持のための基金(クラウドファンディング)をネット呼びかけていることがニュースになっている。調べてみると、文科省予算は、今年度で約5兆3千億円、2020年度から22年度までは防衛省予算と文科省予算はほぼ同額だったので防衛省予算の突出ぶりはあまりに大きい。◆同様に、岸田政権はデジタル化の推進のためには惜しげもなく税金を使おうとしている。現行の健康保険証を来年秋には廃止して、マイナンバーカードにひも付けづけること(「マイナ保険証」)に反発が出ると「資格確認書」を発行すると言いつつ、資格確認書を発行すると言いつつ、資格確認書は現行の保険証と同じではないか、同じものを発行するなど税金の無駄遣いではないか、それなら保険証を残せ」と国民の批判は収まりそうもない◆防衛費の2倍化も、「マイナ保険証」も国民に相談なく、アメリカや財界の要請に一方向的に促して、国民の血税を惜しげもなくつぎ込んでいく。(M)

参加したみなさんの感想

全国の多くのみなさんから
激励を受け、元気をもらい

ました (興国産業支部 門田久弘さん)

建交労全国大会は迫力がありませんでした。全国にも同じような厳しい職場があることがわかりました。名刺交換させてもらい、知り合っても沢山でき心強く思います。来年はたまたかの成果が報告できるような頑張りです。

生活に困っている人を一人残
らず救うとの「覚悟」が伝わって
きました (広島支部・小山元子さん)



初日の夕食後「事業団・高齢者」
交流会に参加した小山元子さん
(8月26日・磯部ガーデン)

「クスノキ通信」が努力賞を受賞。

◆ 機関紙コンクール ◆

広島県本部が月一回発行している機関紙「クスノキ通信」が、機関紙コンクールで「努力賞」を受賞、大会3日目に表彰式が行われ、代議員で参加した山田昭夫書記長が角田委員長より表彰状と副賞を授与されました。「クスノキ通信」は今号で30号となりました。

(写真は8月28日・大会会場にて)



建交労のこれまでのたたかい
の歴史を受け止め、全国の教
訓を生かす (特別代議員 大平文俊)

組合の全国大会には初めて参加しました。建交労には多くの業種で働く仲間が参加しており、たくさんの方のさまざまな発言を聞

このたび、第二五回建交労全国大会に参加させて頂きました。初めての参加で労働組合の意義も全くわからず、ただ母親の付き添いだと言う軽い気持ちでいました。が、全国から集う労働者の方々の熱意ある意気込みに圧倒し深く感動しました。若い人達が全国で、生活に困っている人々を一人残さず救うんだ、という「覚悟」がひしひしと伝わってきました。これほどまでに人々の生活を考え行動している労働組合は建交労以外にないと感じました。底力、日本一の労働組合、建交労をこれからも応援していきたいと痛切に思います。

“老若男女が集う”

第2回ボーリング交流会

○とき 10月22日(日) 午前10時

○ところ 呉マリンボール

呉市宝町4-21
(前回と同じところ)

●参加費 一人2,000円
(参加賞あり)

主催 建交労広島県本部



労職支部書記長の大平文俊さん(事務所にて)

私は労災職業病部会の一員ですが、全国で頑張っているところの教訓も大いに学んで、今後の活動に生かしていきたいと思っています。

いて改めて、建交労のたたかいの歴史が受け継がれてきていることに感銘を受けました。

平和のための広島の

「戦争展」開催される

期間中七百名以上が来場

平和のための広島の戦争展が、八月一日〜二日までの四日間、広島市中区県民文化センター地下展示場で開催され、期間中七百名以上が来場しました。(展示内容説明する主催者)

今年、「戦前とはどういう社会か」、「軍隊(戦争)とジェンダー」、「沖縄戦の実相」などのテーマに沿って、遺品や資料が展示され、来場者は、地上戦となった沖縄戦で犠牲となった人の遺品や遺骨を見入っていました。



ある参加者は「新しい戦前という人もいるが二度と戦争する国にしないためにも、今を生きる我々の責任は大きいと思いません」ときつぱり。

建交労広島県本部
第二五回定期大会

○とき 一〇月七日(土)

午後2時より5時まで

○ところ 広島市中区「ひと・まち交流プラザ」北館5階研修室C

「袋町」電停・バス停から徒歩約3分

●今年の大会は土曜日に設定しましたので、参加者は日程を確保されるようお願いいたします。